

野原 遥希
Haruki Nohara
CENTER



笑顔を忘れずできた。自分たちの試合ができた。ベスト4を後輩に託したい。

和田 爽汰
Souta Wada
SETTER



最後に落としてしまったけれど、強豪相手にも自分達の実力を出せたことが楽しかった。

丹生谷 俊貴
Toshiki Njunooya
LEFT



怖気付かずに戦うことができた。後輩たちには、悔いのないよう納得できる試合をしてほしい。

山岡 舜
Shun Yamaoka
LEFT



試合は緊張しなかった。リラックスして本番で自分の力を出し切ることができた。

佐伯 凜汰郎
Rintarou Saiki
LIBERO



2回戦で負けたことは残念だったけれど、悔いのないよう練習してきたので心残りはありません。

溝渕 愛月
Aina Mizobuchi
MANAGER



最後の試合は楽しそうだった。これからも厳しい練習の時こそ、雰囲気をつくり練習に励んでほしい。



PICK UP
最後の夏
Toon high school
volleyball player



6月4日、令和4年度愛媛県総合体育大会（バレーボール競技）が松前町で行われた。県大会への切符を手に入れた東温高校バレーボール部は、初戦を新田青雲中等教育学校、2回戦は松山工業高校と戦った。試合後の彼らの表情は笑顔に溢れていた。

4月23、24日に行われた愛媛県総合体育大会中予地区予選で東温高校は、10組中2位の好成績を残し、県大会への出場権を獲得した。初戦の新田青雲中等教育学校との対戦はゲームカウント2対0の完封勝利を納めた。2回戦の相手は県大会2年連続優勝を狙う強豪、松山工業高校。惜しく

も負けてしまったが3年生6人の表情に曇りはなかった。「部員一人ひとりが課題を持って常に明るくをモットーにしています。学年の上下関係なしに、一人ひとりが好きなバレーを楽しめるような雰囲気づくりに努めています」そう話すのは野原遥希さん。東温高校男子バレーボール部は26人。総体の練習は、トレーニングや、ブロック、コンビ、サーブの打ち込みなど。特徴的なのはトレーニング。部員は各自の課題に沿ってトレーニングメニューをこなす。「1年生と3年生には体力差があり、それぞれのペースで取り組んでいます。終わりに差が出てしまうので、早い人は対人など個々の練習をしています」と話す男子バレー部顧問の石丸志保先生。トレーニング中は流行りの音楽が流れる。「音楽をかけることで、単純できついトレーニングを少しでもモチベーションが上がるようにしている」と石丸先生は話す。部員全員が常に明

る気持ちで取り組める雰囲気づくりが練習から伝わった。

練習の成果が顕著に現れたのは県大会の対松山工業高校戦。試合開始後、相手の猛攻撃に25対12で1セット目を逃してしまふ。しかし、気持ちの面で前を向いていた彼らの表情は明るかった。迎えた2セット目、相手の高い位置からのスパイクが容赦なく続く中、粘り強く繋ぐ東温高校。さらに、相手の隙を見抜きスパイクを決める。相手の猛攻撃に粘り強く挑み健闘したが、最後は25対20で惜敗した。



しい思いもあります。ですが、後悔はありません。最後は明るく自分達らしいプレーができたことが嬉しかった」と野原さんの表情はスッキリとしていた。「目標としていたベスト4を獲得できなかったことは残念。ただ、明るく愛されるチームを3年生が築いてくれた。新チームでもそんなチームづくりができた」と石丸先生は笑顔で話した。

